

## 平成31年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

グローバル社会を生きぬく

1 ネットワーク 2 フットワーク 3 ヘッドワーク

3つのワークを大切にし、実行できる生徒を育てる学校

## 2 中期的目標

1. 確かな学力の育成と授業改善。新学習指導要領や高大接続改革を踏まえた取組み推進。

(1) ノートパソコン等の端末を授業で活用し、生徒の学習に対する意欲・関心や情報活用能力を高め、これからの知識基盤社会を生き抜く力を育む。

(2) グローバル社会における「国際共通語」としての英語の4技能をバランスよく高め、世界で働くことのできる人材を育成する。

(3) 生徒の学力向上と進路実現を支援するために、進路講演会及び放課後や土曜日を活用した無償・有償の講習を行う。

(4) 「授業力向上等検討委員会」を中心として、アクティブラーニングや授業形態の工夫、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。生徒授業アンケートも活用し、授業指標である「桜塚教科スタンダード」やシラバスの見直しを行い授業力の向上をめざす。

(5) 「桜塚の総合的な探究の時間」をまとめていく。新しい大学入試を視野に入れた記述力の養成等の取組みを充実させる。幅広い科目の学習を進んで行い、社会に出てからも活用できる知識・技能や興味・関心を身に付け、「課題に向き合い、解決をめざす」人材の育成を図る。

(6) 朝学（総合基礎）を充実させ、基礎的・基本的な学力の確実な定着・充実に努める。SSSC(Sakura Study Seminar Camp) [1年勉強合宿]を実施して、入学直後から自らの進路実現のため真摯に努力する態度の涵養を図る。

(7) 図書館の「学習・読書・情報」の核としての機能再生を整備する。生徒の利用者数も増える取組み推進。(利用者数の前年比10%増)

(8) 専門コース（グローバルスタディコミュニケーションコース [GSC] とグローバルスタディサイエンスコース [GSS]）制を生かし、生徒の学力の更なる効果的な向上を図り、第一希望の進路実現を図る。国公立大学30名合格を目標とする。

※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「授業はわかりやすい」に対する肯定的評価の60%を向上させ65%にし、2021年度には70%をめざす。

(9) 自宅学習、自習室の活用、講習、補習を積極的に取り組める体制づくりを行う。

2. 人間力をつける

(1) 道徳教育の推進を図る。人間関係構築の第一歩として、「あいさつ運動」を実施すると共に遅刻数を減少させる。規則を守り、礼儀に気をつける。

(2) 教育相談体制の充実。「自己肯定感を大切に」教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行う。

(3) 地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を行うことで異世代・異文化との交流に生徒が参画し、教員は活動を支援・促進する。

(4) 体育祭・文化祭等の行事や部活動、自治会活動等を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。保健・安全・衛生管理に留意する。

3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する

(1) OB・OG、豊中市役所等の公的機関、大学、各種団体との連携と支援を生かした取組みを展開する。

(2) 平成24年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を発展させ、東日本大震災の被災地に寄り添い連携する態度のさらなる涵養を図り、持続的な支援や交流を行う。H30年度の大きな自然災害の経験と、「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。

(3) 広報活動を積極的に行う。WEB Pageを更に見やすくし、更新を頻繁に行う。生徒も、更新等に参画。

4. グローバルリーダーの育成

(1) 国際社会で通用する人材を育成するため、異文化や習慣の違いを尊重する精神を育む為に国際交流を積極的に進める。長期、短期の留学生を積極的に受け入れる。

(2) 国際的なコミュニケーション能力を育成するために、国際的共通語としての英語のコミュニケーション能力の育成に努める。「めざす学校像」を実現させる為に、専門コース制を生かし、より英語や理数系科目を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。

5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化

(1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。

(2) さらなる発展のために、土曜授業のあり方を検討する。単位数の減を最小にし、朝学等の継続と、部活動等のため放課後の時間確保も図る。それに伴う教育課程の検討を始める。

(3) 運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。

(4) 「学校組織運営に関する指針」に基づく学校運営を行う。新たに創設した「情報部」を機能させる。分掌に位置付けられない組織(Sakura Project Team)の取組みを推進する。

(5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。

(6) 働き方改革の継続、大阪府運動部活動、文化部活動等在り方方針等を踏まえる。夏季及び冬期休業中に学校閉庁日の実施。

ノークラブデー、全庁一斉退庁日の実施。残業時間月平均45時間未満をめざす。

(7) ミドルリーダーの育成。経験の少ない教職員へのOJT等の充実を図る。

6. 個人情報等の適正管理

(1) 個人情報等の適正管理をめざす

(2) 備品等の適正管理をめざす

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 令和元年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【総括】 保護者、生徒ともほとんどの質問項目で肯定的回答が否定的回答を上回った。また、学校に対する総体的印象を聞く質問である「子どもは学校に行くのを楽しみにしている(保護者)」は84.8%、「学校に行くのは楽しい(生徒)」は83.4%、「学校での生活に満足している(生徒)」は76.8%といずれも高い値を維持した。</p> <p>【学習指導】 ・「授業はわかりやすい(生徒)」が62.4%、「授業は学力向上に役立っている(生徒)」が70.1%、「子どもは授業がわかりやすいと言っている(保護者)」が50.6%</p>	<p>【第1回(6月22日)】 ○平成31年度学校経営計画について ・以前は生徒のスマートフォンを授業で利用していたが、今年度から新一年生全員にノートパソコン(Chrome book)を購入させた。→授業内での携帯の取り扱いについては改めて指導の徹底をするべき ○その他学校の取り組みについて ・高校生のうちに、自分が将来的にどのような人間になりたいのか考え、話し合いをする時間を週一回でも(LHRなどを活用し)持つべきではと思う。</p>

## 府立桜塚高等学校

で、授業満足度は高いとはいえない。わかりやすい授業のために何が必要か、さらに検討をしてゆく必要がある。

・今年度も5月と11月を「授業改善月間」と称し、教員による相互授業見学や研究授業を行った結果「他の先生が授業を見学に来ることがある(生徒)」は80.8%であった。

・「授業などで情報ICT機器を活用している(教職員)」は92.3%であった。ICT機器の活用に不慣れな教員もいるので、教員同士の教えあいを進め、全ての教員がICT機器の活用に習熟するようになっていく必要がある。

## 【生徒指導】

・「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている(生徒)」の肯定的回答は70.0%であり、「先生は協力して生徒指導にあたっている(生徒)」の肯定的回答は74.2%であった。生徒はおおむね本校教員の生徒指導を好意的に受け入れているといえる。

・「桜塚高校の生徒指導の方針には共感できる(保護者)」は73.6%で、本校の生徒指導は保護者にもおおむね理解を得ている。

## 【進路指導】

・「将来の進路や生き方について考える機会がある(生徒)」は78.7%、「桜塚高校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている(保護者)」が72.1%であった。大学受験だけでなく、その先の人生も含めた「キャリア教育」の指導を充実させる必要がある。

## 【自治活動】

・「部活動に積極的に取り組んでいる(生徒)」79.4%、「学校行事は楽しく行えるよう工夫されている(生徒)」79.3%、「部活動は活発だと思う(保護者)」83.2%、「子どもは文化祭・体育祭等の学校行事に積極的に参加している(保護者)」92.2%で、部活動や学校行事に対する生徒、保護者の評価は高い。

## 【施設設備】

・「校舎や体育施設は整備されている(生徒)」70.6%、「施設設備は満足できる(保護者)」45.4%で特に保護者の満足度が低い。

## 【地域連携等】

・豊中市や岡町商店街との各種連携事業や東日本大震災の被災地支援ボランティアで始まった岩手県立大槌高等学校との交流について、肯定的評価は生徒68.2%、保護者85.5%、教職員90.4%であった。生徒の意識と保護者、教職員の意識に差がある。生徒の意識を高めるような取り組みを考えてゆく必要がある。

## 【情報提供】

・「桜塚高校は、進路に関する情報提供に努力している(保護者)」は72.9%、「桜塚高校の『ケータイ連絡網』によるメール発信を知っている」は76.6%、「教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている(教職員)」は88.2%であった。概ね適切に情報提供を行っていると評価されたが、進路の情報提供の頻度や方法についてはさらなる工夫が必要である。

## 【学校運営】

・「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」が90%、「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」が94.2%であり、教職員は協働して業務を進めている。

・「PDCAサイクルによる学校経営を推進している」は65.3%、「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」は61.6%であり、まだ十分とはいえないが、以前よりは改善されている。

・「教職員の服務規律への自覚が高い」は86.5%であり、服務規律に対する意識は高いといえる。

・今年度も8/16～19の日程で、東北地方へのボランティア活動(ボランティアバス)を実施するので協力をお願いしたい。

## 【第2回(10月17日)】

○交通安全指導に関して

・生徒の登下校時、道の真ん中に広がって歩いているのが目立ち、地域住民からも危険であるとの声がある。なるべく端により後ろを気にする癖をつけてほしい。

・商店街の中は自転車が通ることができるが、様々な危険があるため歩いて通るよう促している。

・地域の巡視報告の中でも自転車マナーができていないとの報告が上がっていたので、学校の指導をよろしくをお願いしたい。

○授業改善に関して

・授業相互見学については多忙な中でなかなか難しいため、一定のルールを設けてはどうか。また推薦授業の設定をして、若手教員に見るように指示するのはどうか。

○成人年齢引き下げに関して

・高校3年生は選挙権を持っているので、どのように社会に参画していくのか、また一票の重さについての指導をしてほしい。大学生でもなかなかできていないが、高校生から日本を良くするために社会に参画するしくみを作ってほしいと考えている。

## 【第3回(1月30日)】

○授業アンケートに関して

・座学質問1.「授業内容を理解するために予習復習をし、宿題等の課題があれば必ず提出している。」と実技質問1.「授業中は集中して先生の指示やアドバイスを聞いている。」という予習復習等に関する質問と授業中の取り組みに関する質問の評価結果の平均データを混合して資料に載せているが、内容が違うのでデータの集計は分けた方がよいのではないかと。

○学校教育自己診断(生徒)(全日制)に関して

・「学校へ行くのが楽しい。」「学校行事は楽しく行えるよう工夫されている。」「学校での生活に満足している。」などの項目で肯定的評価が減ってきている。このアンケートの振り返りをする必要がある。

・「中期的(3か年)な目標を踏まえ課題を明確にした『学校経営計画』を策定し、PDCAサイクルによる学校経営を推進している。」の肯定的評価が過去3年度とも低くなっている。全職員の6割程度しか肯定的評価をしていないので、学校経営計画の内容を教職員間で共有する必要がある。

・生徒質問「奨学金制度についての情報を知らせてくれる。」と保護者質問「桜塚高校は、進路に関する情報提供に努力している。」の肯定的評価に差がある。情報提供の在り方に工夫が必要。

・生徒質問「桜塚高校の施設・設備は、学習環境の面で満足できる。」の肯定的評価が低い。原因を分析する必要がある。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学ぶ力をつける	<p>1. 確かな学力の育成と授業改善。</p> <p>(1) ノートパソコン等端末活用授業で、意欲・関心や情報活用能力を高める。</p> <p>(2) 英語の4技能を高める。</p> <p>(3) 生徒の学力向上と進路実現を支援する。</p> <p>(4) 「授業力向上等検討委員会」を中心として、生徒授業アンケートも活用し、授業改善を図る。</p> <p>(5) 桜塚の総合的な探究の時間をまとめていく。</p> <p>(6) 朝学（総合基礎）を充実させる。SSSC(Sakura Study Seminar Camp) [1年勉強合宿]を生かす。</p> <p>(7) 図書館の「学習・読書・情報」の核としての機能再生を整備する。生徒の利用者数増の取組み推進。</p> <p>(8) 専門コース制を生かし、第一希望の進路実現を図る。</p> <p>(9) 自宅学習、自習室の活用、講習、補習を積極的に取り組める体制づくりを行う。</p>	<p>新学習指導要領、高大接続改革を踏まえた取組み</p> <p>(1) グーグルクラスルーム、クロムブック等を活用した授業形態に取り組む。「調べ学習」「小テスト」「プレゼンテーション」を行うことで、生徒が主体的かつ協同して学ぶようにする。</p> <p>(2) GSC の授業で、4 大学から Native English Teacher 等の講師を招聘し、Speaking 力の向上をめざす。全学年でリスニングテストの実施。GTEC を1・2 年で実施する。</p> <p>(3) 進路講演会の充実及び5：30 以降の講習「桜塾」を継続実施する。</p> <p>(4) アクティブラーニングや授業形態の工夫、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。教員相互の授業見学を実施する。教科会により「観点別評価」に基づく授業展開・考査問題作成を行うことで、「桜塚教科スタンダード」と「シラバス」のブラッシュアップを図る。</p> <p>(5) 1 年生対象に総合的な探究の時間の実施。新しい大学入試を視野に入れた記述力の養成等の取組みを充実させる。知識・技能や興味・関心を身に付け、「課題に向き合い、解決をめざす」人材の育成を図る。</p> <p>(6) 積極的に取り組まない生徒への指導・補講を行う。SSSC において高校での学習の仕方や授業規律について学ぶとともに、外部講師や卒業生による講演等で自らのキャリアデザイン等を描く。</p> <p>(7) 図書館利用者累計数の増加。図書委員会の活動の促進 ・カウンター係の仕事の充実化（書架・書庫の系統的な雑誌・書籍の整理）・図書便り（含：新刊書籍紹介）の定期的な発行を通じてのサイン活動の活性化。・年1 回以上の校外購入選書の実施。・有効な情報検索と提供・・・コンピュータ利用の活性化。</p> <p>(8) 専門コースが学校全体を牽引し、学力の更なる効果的な向上を図る。</p> <p>(9) 自宅学習の推進を図る。5:30 以降の講習受講や自習室の活用を促す。</p>	<p>(1) 授業アンケート～教材活用「先生は用具の他、ICT 機器や役に立つ教材などをうまく使っている」70%以上</p> <p>(2) 受験者の50%がGTEC スコア690 以上（英検準2 級以上）そのうちGSC の生徒は20%以上がスコア960 以上（英検2 級以上）。</p> <p>(3) 満足度80%以上</p> <p>(4) 生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすい」のH30 年度59.2%の5%アップ</p> <p>(5) SSSC の満足度H30 年度66%の5%アップ</p> <p>(6) 総合基礎（朝学）の上位評価「課題に意欲的に取り組んだ」90%以上</p> <p>(7) 図書室の利用者数H30 年度914 名の10%アップ</p> <p>(8) センター試験において各科目とも全国平均をめざす</p> <p>(9) スマホ・タブレット等を有効活用した勉強法を紹介。5：30以降講習受講者の昨年度と同等をめざす。(H30 250名)</p>	<p>(1) 授業アンケート～教材活用「先生は用具の他、ICT 機器や役に立つ教材などをうまく使っている」80%（◎）</p> <p>(2) 大学教授による出張授業を6 回実施。いずれも生徒事後アンケートでは肯定的評価（「とても良かった」「まあまあ良かった」）が95～99%。GTEC スコア690 以上（英検準2 級以上）82.5%。GSC の生徒は5%以上がスコア960 以上（英検2 級以上）であった。（△）</p> <p>(3) 進路講演会は山内氏と屋木氏が隔年で講演してもらう形が定着しており、生徒の評価も高い（3 月実施）。「桜塾」は3 年（現代文）の満足度が90%を越える一方で、1 年英語は50%程度、数学は30%を下回り科目や学年による差が激しい（△）</p> <p>(4) 62.4%で、3.2 ポイントのアップ（○）。今後は教科で授業について協議する時間をしっかりと確保する工夫が必要。</p> <p>(5) SSSC については昨年度より実施場所、宿泊教員数等において、教員の負担を軽減し生徒学習活動等の環境を整えた。さらに本年度は「探究」活動を中心にすることでさらに有意義な内容となった。導入の修学旅行の行き先決定では問題が生じて混乱に至ったが、ロールモデル探求と英語での発表などは円滑に実施できて、防災の取組みも含めて、目標指数を下回ったが来年度に向けて一定の成果があったと考えている。SSSC の満足度H30 年度66%、H31 年度54.8%(○)</p> <p>(6) 総合基礎（朝学）成績優秀者を終業式で表彰することで家庭学習を含めて積極的に取り組むように働きかけた。上位評価「課題に意欲的に取り組んだ」は全学年で90%以上となった。（○）</p> <p>(7) 図書館利用者累計数がH30 年度914 名からR1 年度2383 名に増加。図書委員会の活動の促進として、カウンター係の仕事の充実化を行った。また図書便りの定期的な発行を行った。年1 回の校外購入選書の実施を近日予定している。有効な情報検索と提供については、今年度一年生より、教室での個人端末の利用が可能となったため、今後、図書室におけるコンピュータ利用の活性化について必要性を検討する必要がある。（◎）</p> <p>(8) 1 月18・19 日実施のセンター試験の自己採点集計（暫定値）のうち英語（筆記）についてはGSC コースの生徒平均は139 点で、20 日現在、河合塾が予測した全国平均点の117 点を20 点以上上回っている。またリスニングも31 点で2 点上回った。（○）</p> <p>(9) 1 年生を中心にノート PC を活用した勉強法を紹介している。5：30 以降講習受講者は、「外部講師による講座」スタートの昨年度に比べると減少した。(H30 250 名、H31 160 名)（△）</p>

## 府立桜塚高等学校

2 人間力をつける	<p>2. 人間力をつける</p> <p>(1) 道徳教育の推進。「あいさつ運動」をすると共に遅刻数の減少。</p> <p>(2) 教育相談体制の充実。「自己肯定感を大切にすする」</p> <p>(3) 地域連携・地域貢献活動・国際交流活動</p> <p>(4) 体育祭・文化祭等の行事や部活動、自治会活動等を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。</p>	<p>(1) 学校全体でさらにあいさつが活発になされるよう、啓発を推進する。時間を順守することの大切さを再確認する。決められた規則を守り、礼儀に気をつける。</p> <p>(2) 「生徒一人ひとりを大切にすする」教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行い、生徒相談機能を高める。</p> <p>(3) 地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を行うことで異世代・異文化との交流に生徒が参画し、教員は活動を支援・促進する。</p> <p>(4) 部活動、自治会活動等を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。文化祭で演劇の推進</p>	<p>(1) 学校教育自己診断結果における関連項目での肯定率70%以上を維持前年度遅刻数（前年度 68%）の5%減</p> <p>(2) 学校教育自己診断結果における関連項目での肯定率平均4%向上（H30年度 58%）</p> <p>(3)年間3回以上の実施</p> <p>(4)教職員向け学校教育自己診断関連項目90%以上を維持（H30年度 95%）</p>	<p>(1)11月に1週間、あいさつ運動を兼ねた「遅刻防止週間」キャンペーンを風紀厚生委員の生徒とともに実施。2月にも実施予定。学校教育自己診断結果におけるあいさつに関する項目での肯定率生徒71.2%。遅刻者総数、12月までの集計で27、2%減（◎）</p> <p>(2)生徒相談・いじめについてのアンケートを実施するとともに、相談窓口を周知し教育相談体制を充実させたが、肯定率平均は62%。（○）</p> <p>(3)海外の高校生を迎えての国際交流（韓国、アメリカ、香港、ウズベキスタンなど）を5回以上実施。小学生ラグビー教室や観桜会での茶道部お点前など地域連携・地域貢献活動も複数回実施（◎）</p> <p>(4)軽音楽部とダンス部が全国大会に出場。文化祭では、演劇部門の希望クラスも増え、放送芸術学院の先生にも演劇のご指導をいただくことができた。学校教育自己診断関連項目94.2%（◎）</p>
3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する	<p>3. 地域の信頼される学校を促進・広報する</p> <p>(1) 豊中市役所等の公的機関、大学等との連携と支援を生かした取組みを展開する。</p> <p>(2) 岩手県立大槌高等学校との連携事業の発展。「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。</p> <p>(3) 広報活動を積極的に行う。WEB Page を更に見やすくし、更新を頻繁に行う。生徒も、更新等に参画。</p>	<p>(1)OB・OG、豊中市役所をはじめとする公的機関、大学、各種団体との連携と支援を生かした取組みを展開する。</p> <p>(2) 平成24年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を発展させ、東日本大震災の被災地に寄り添い連携する態度のさらなる涵養を図り、持続的な支援や交流を行う。H30年度の大きな自然災害の経験と、「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。</p> <p>(3) WEB Page を更に見やすくし、更新を頻繁に行う。生徒も、WEB Page の部活動・自治会活動部分の更新等に参画。学校説明会等を開催して広報活動を積極的に行う。</p>	<p>(1)公的機関等と連携し、入学式・卒業式にも臨席依頼し、生徒保護者へも周知する。大学と連携し、授業等を依頼し、生徒の自己実現を支援いただく。生徒による学校教育自己診断肯定的回答70%以上（H30年度 59.2%）キャリア教育と進路実現に繋げる</p> <p>(2)年1回以上の相互訪問や生徒への趣旨説明</p> <p>(3) WEB Page を月に5回以上更新する。学校説明会参加者数の増加。（H30年度 生徒1,052人、保護者952人、計2,004人）</p>	<p>(1) 豊中市等との連携で、留学生受け入れや親学習等を実施した。しだれ桜の一般公開を今年も実施した。従来の阪大関大との連携に加え、外部講師招聘を通じ、他大学との連携も増やした。地域連携に関する生徒の学校教育自己診断の肯定的回答は68%。（○）</p> <p>(2) 豊中市社協ボランティアバス事業に10名の生徒が参加し、被災地の人たちと交流し理解を深めた。（◎）</p> <p>(3)WEB Page を98回以上更新した（月平均11回）。最終の学校説明会参加者数が生徒897人、保護者1028人、計1,925人。（○）</p>
4. グローバルリーダーの育成	<p>4. グローバルリーダー育成</p> <p>(1) 国際社会で通用する人材を育成する。国際交流を積極的に進める。</p> <p>(2) コミュニケーション能力の育成に努める。専門コース制を生かし、より英語や理数系科目を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。</p>	<p>(1) 忠南外国語高校との姉妹校協定を生かした取組み。ホストファミリーの開拓。国際関係の諸機関・大学などとの連携の強化。NZ、米国、韓国での研修の実施。</p> <p>(2) 「課題研究」の内容の再検討と更なる充実。「英語理解」におけるネイティブを含む大学講師の授業を依頼する。「第二外国語」「国際理解」など専門科目の充実</p>	<p>(1) 国際交流活動などに取り組み、これを肯定的に評価する生徒85%以上（H30年度 82.4%）</p> <p>(2) 授業評価における生徒意識。2回の平均値3.3以上（H30年度のGS科目の平均値3.2）</p>	<p>(1) 肯定的評価84.3%、過去3年間肯定的評価が着実に増えているが、目標の数値には届かなかった。（△）</p> <p>(2) 授業評価における生徒意識の平均値は「課題研究」が3.0、「第二外国語」が3.2、「国際理解」が3.9、GS科目の平均値は3.2で昨年と変わらなかった（△）</p>

## 府立桜塚高等学校

5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化	<p>5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化</p> <p>(1) 全・定併置校の特色を活かした取り組み。</p> <p>(2) さらなる発展のために、土曜授業のあり方検討</p> <p>(3) 運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換をする。</p> <p>(4) 分掌に位置付けられない組織 (Sakura Project Team) の取り組みを推進させる。新たに創設した「情報部」を機能させる。</p> <p>(5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。</p> <p>(6) 働き方改革の継続</p> <p>(7) ミドルリーダーの育成。経験の少ない教職員へのOJT等の充実を図る。</p>	<p>(1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。</p> <p>(2) さらなる発展のために、土曜授業のあり方を検討する。単位数の減を最小にし、朝学等の継続と、部活動等のため放課後の時間確保も図る。それに伴う教育課程の検討を始める。</p> <p>(3) 運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。</p> <p>(4) 新たに創設した「情報部」は、校務処理はじめ既存分掌の情報関係業務を担う。「学校組織運営に関する指針」に基づく学校運営を行う。分掌に位置付けられない組織 (Sakura Project Team) の取り組みをさらに機能させる。</p> <p>(5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。</p> <p>(6) 働き方改革の継続、ノークラブデー、全庁一斉退庁日の実施。残業時間月平均45時間をめざす。年2回の学校休業日を生かす。</p> <p>(7) ミドルリーダーの育成。経験の少ない教職員へのOJT等の充実を図る。</p>	<p>(1) 定時制との関係に関する質問を設け、肯定的回答70%以上。(H30年度 59%)</p> <p>(2) 運営委員会等で議論する時間を確保する。</p> <p>(3) 教員向け学校教育自己診断関連項目肯定率80%以上を維持。</p> <p>(4) 情報部の位置づけ、役割を固める。SPTの取り組みをさらに機能させる。</p> <p>(5) 昨年度と同等以上の職員研修回数を確保。PTAとの共催研修を企画する。</p> <p>(6) 全職員残業時間月平均45時間をめざす。</p> <p>(7) 校内研修を実施し問題意識を共有する。教員向け学校教育自己診断関連項目肯定率+3%(H30年度は48%)</p>	<p>(1) 4月に全教職員による全定合同職員会議実施し、その後連絡会を開催するとともに、定期的に管理職会議も持つことで、協力関係を構築した。肯定的回答は64%(△)</p> <p>(2) 来年度から木曜を7限にしてノークラブデーにすることで、土曜授業の回数を減らし、完全下校時間を10分遅くして部活動等のため放課後の時間確保も図る。それに伴う教育課程の検討を始めている。(○)</p> <p>(3) 運営委員会で意見交換を行い、学校運営の基本的な方向性を確認し、肯定率は昨年度を5%上回り90%となった。(◎)</p> <p>(4) SPTを活性化し、分掌に位置付けられない業務をチームで分担している。「情報部」を機能させるべく取り組んだ。(○)</p> <p>(5) 校内研修を予定していた7回すべてを実施した。PTAとの共催研修も実施した。(◎)</p> <p>(6) ノークラブデーの確実な実施と、全庁一斉退庁日の推進を行った。11月まで8か月間の月平均残業時間の平均が80時間を超える職員はいないが、ストレスチェックの全校値は、昨年101から113になった。(△)</p> <p>(7) 校内研修に加えて、30~40代の教員の校外での研修参加を促すとともに、経験の少ない教職員へのOJT等の充実を図った。肯定率は59.6%。(◎)</p>
管理 6. 個人情報等の適正	<p>(1) 個人情報等の適正管理</p> <p>(2) 備品等の適正管理</p>	<p>(1) 個人情報等の適正管理をめざす</p> <p>(2) 備品等の適正管理をめざす</p>	<p>(1) 個人情報の適正管理に関する研修を年1回以上実施する。</p> <p>(2) 各室の備品等管理簿(配置図含む)を作成し更新し、引継体制を強化する。</p>	<p>(1) 各分掌の個人情報管理簿に基づき、適正な管理に努めた。なお、府政情報室作成の「個人情報の適正な取扱い・管理について」を用いた研修を12月5日に実施した。(○)</p> <p>(2) 各室の備品管理簿を更新し、管理状況を確認した。(○)</p>